

やはば

議会だよ

一般会計補正予算 6414万円 2

大胆な施策で保留地販売 一般質問6議員 4

矢巾中学校建設事業 5989万円増 3

まちの人 チャグチャグ馬コ同好会矢巾支部長 10

173
2010.7.15



チャグチャグ馬コとふれあう園児たち（不動保育園）



グラウンド造成が進む矢巾中学校

一般会計補正予算 6414万円を追加

総額93億3434万円

11議案を可決

6月定例会は9日から11日までの会期で開かれ、報告事項3議案、人事案件1議案、条例改正および一般会計補正予算など7議案を審査し、すべて可決しました。

一般質問は6人が登壇し、広宮沢第二地区土地区画整理事業における保留地の販売と企業誘致についてなど18項目にわたる質問を行いました。

コミュニティ施設等 整備事業

自治総合センターコミュニティ助成金を使い、2自治会に物品購入の補助をします。

矢巾第1区自治会の移動式屋内外放送設備購入費を助成。

100万円

白沢住民自治会に矢巾町指定無形民俗文化財である白沢神楽衣装および兜等の購入費を助成。

120万円

財産管理事業

役場庁舎南北の玄関前、体育館および保養センター等に身体障がい者の駐車スペース、看板を設置します。

67万円

矢巾中学校建設事業 5989万円増額

昨年度校舎および屋内運動場建設予定地内4ヶ所の地質調査の結果、校舎敷地南端付近では良好な地盤が確認できたが、それより北側については地下60m程度まで調査したものの、良好な地盤が確認できませんでした。そのため建設に当たっては、通常使用される工法では経費がかさみ施工日数も増えることから、土の摩擦を利用して建物を支える「摩擦杭工法」により施工することとしました。

条例改正

行政区再編審議会条例の一部改正により、審議会委員11人が13人に増員されました。

人事案件

（人権擁護委員） に同意

村松 哲さん（新）
（広宮沢2区行政区）

人権擁護委員の任期は法務大臣が委嘱した日からとなっていることから、今回新たに推薦することに同意しました。



伝統芸能白沢神楽



芦生 健勝 議員

ウォーキングコースの新設

創設に向けた協議検討

芦生 広宮沢第二工地区画整理事業における保留地の販売と企業誘致については、町長および関係者の懸命な努力で進められているが計画通り進まず事業を5年間延長することとした。

しかし、その後の事業展開も思うように進まないことから3年後の精算も心配されており、大胆な施策を持って保留地販売に取り組みべきと思うがどうか。

町長 組合は当初計画を5年間延長し平成25年3月までの精算とした。町としては、技術指導、援助を重ねながら保留地販売、企業誘致を支援してきたが、近年の経済情勢の変化から売却が進まない状況である。

今後も企業訪問を継続し情報収集等を進め、保留地単価の見直しや立地環境の整備に努め積極的に支援していく。



水辺の里(水車小屋)

芦生 南昌山を中心とした西部の丘陵地帯は、自然遊歩道、キャンプ場が整備されておりウォーキングに最適と思われる。

町長 南昌山麓の裾野に広がる幣懸の滝、水辺の里、城内山、旧稻荷街道松並木などは、観光スポットとして紹介し誘客にも努めている。今回のウォーキングコース創設についてはコース希望周辺に町道、県道があり課題も多いが関係団体との協議を重ね様々な見地から検討していく。

公共施設の安全管理 危険箇所の実態把握

芦生 先般、県内の学校体育館事故により、被災児童が死亡するという惨事が発生した。その後、野球場で生徒がケガをする事故がおき、安全管理に問題があった。

本町における、公共施設等の安全管理について伺う。

町長 公共施設の安全管理は施設管理者、指定管理者が定期的に安全点検を行っており、都市公園については専門業者が年2回実施している。

町内小中学校においては、学校保健安全法に基づき点検を実施しており、今後も危険箇所の実態把握を行い事故防止に努めていく。

一般質問

大胆な施策で保留地販売 環境整備に努め積極支援

矢巾中跡地の利用計画

有効的な利活用策を検討

長谷川 跡地利用は町民の声や各団体からの意見を集約し、町民共有財産として、本町教育の歴史に残る跡地を幅広く活用できる多目的運動公園にするべきと思うが、町長の考えは。



跡地利用が待たれる矢巾中

町長 矢幅駅西地区の活性化とまちづくりを図る資源としての活用策を考えているが、現時点では具体的な方向は定まっていらない。

有効的利活用策を考えた多目的スポーツ施設や看護師などの養成学校や教育施設の誘致など慎重に検討している。



長谷川 和男 議員

農業用水管の破裂防止策 万全な対策を強く要望

長谷川 昨年の5月に広宮沢区内で鹿妻穴堰土地改良区が管理する農業用水管が破裂したが、今回の事故で3回目であり町道の管理者として関係機関とどのような協議をしているか。

町長 西部用水路は過去にも同様の事故が発生していることから、東北農政局や管理受託者である鹿妻穴堰土地改良区に対し万全の対策を講じるよう強く要望していく。

岩崎川の拡幅事業

計画通り進捗

長谷川 岩崎川拡幅事業について伺う。

①県道矢幅停車場線うすら沢橋から上流への着工見通しは。

②上流にある既存の橋梁について本町の対応は。

町長 ①一部区間の暫定河道掘削等を計画しており、1億9400万円程を見込んでいます、県から聞いています。

②上流にある6橋のうち、2橋については廃橋とする方針であり、幅員拡幅については県と調整をしていく。

③昨年度に引き続き用地、補償関係を先行させ、一部区間について暫定河道掘削等を計画したいと、県から聞いており、計画が明らかになった段階で本町に説明がある。



拡巾が望まれる砂子田橋



藤原 由巳 議員

少子高齢化社会にどう対応 子育て相談機能の充実

藤原 六次総・後期計画における重点施策について伺う。
①後期計画策定までのスケジュールについて。
②今後急速に進むと思われる少子高齢化社会に向けた施策をどう考えるか。
③高齢化社会到来に伴い、現役世代減少における個人からの税収見直し等財政施策は。

町長
①11月に予定している第5回総合開発委員会後期基本計画について、答申をいただくとスケジュールとなっている。
②「安心で生きがいのある健康長寿のまちづくり」を基本に、子育てに関する相談機能の充実や保育サービス提供のあり方、高齢者世帯への見守り支援体制の確立、保健福祉サービスなどについて検討・協議を踏まえ後期計画に反映していく。
③個人住民税は減収が予想されるが土地利用施策や少子化対策により固定資産税の増収という相乗効果をもたらすと考えている。
また法人税は、企業誘致に取り組み商工業・農業の活性化に波及させ、税収の落ち込みを補填していきたい。



矢巾の未来を担う子どもたち

藤原 22年度の農業振興推進計画について次の点を伺う。
①米戸別所得補償モデル対策への加入農業者数、加入面積と控除面積、本町の水稻栽培計画面積との比較、認定方針作成者間の連携調整等の状況は。
②水田利活用自給率向上事業における作物別の作付け計画は。
③米価下落、冷害も予測される厳しい情勢の中、この2事業での本町への交付金はどの程度見込まれるか。
④本町農業の現状を精査し、将来希望の持てるビジョン作成にどう取り組むのか。

町長
①加入者数972経営体、面積1380畝、控除面積54畝であり100%の



豊作を願う田植

面積が加入するものと見込んでいます。
また、認定方針作成者間の調整については、30畝ほど生産調整面積が多かったことから、協議したが、本年度は未調整に終わった。
②作付け計画は小麦450畝、大豆18畝、飼料作物115畝、野菜55畝等、782畝となっている。
③交付金は、米のモデル事業2億600万円、水田利活用自給率向上事業2億8200万円、併せて4億8800万円ほどを見込んでいます。
④計画策定に当り、農業者の詳細な意向調査を予定しており、策定委員には農業者や農業関係団体に加え六次産業化を意図し商工関係者にも委嘱していく。

希望の持てる農業振興

ビジョン策定に本腰

幅員の狭い生活道路の解消

実情を検証し順次整備

山崎 幹線道路の整備計画について伺う。
①東西幹線道路のビジョンと整備について。
②幅員が狭く緊急車両などの交通確保が難しい路線の敷と整備計画は。
③未舗装生活道路の舗装計画を。示せ。
④矢次線の完成見通しは。
在要望しているスマートインターチェンジ設置事業等総合的に考えていく。
②幅員の狭い路線は286路線あり、交付金の活用が困難なことから地域との話し合いの中で方向性を模索していく。
③請願・陳情が出されている119路線の中で63路線について総合計画との整合性、緊急性、地域の実情等検証し順次整備していく。
④矢次線については1名の地権者から事業に係る同意を得ることが出来ず完成が遅れているが協議継続中であり早期完成に向け努力していく。



山崎 道夫 議員

町長
①本町の幹線道路は南北線の整備は概ね完了しているが東西線は一部を除き未整備となっている。今後予想される医大附属病院の総合移転や、現



整備が待たれる交差点(田中縦道線)

地震による落下、転倒防止策 ガイドブックにより綿密に対応

山崎 学校の耐震化が急がれており本町でも3小学校の耐震化工事が計画されている。
文部科学省の「耐震化ガイドブック」による落下、転倒等の点検と対策が講じられているか。



耐震化工事予定の不動小学校

教育委員長 学校保健安全法に基づいて日常的に目視により点検している。
点検項目は「耐震化ガイドブック」の項目と概ね一致しており、今後ガイドブックを参考にしながら施設の安全管理に万全を期していく。



小川 文子 議員

口蹄疫への対応策

消毒剤の無償配布

小川 家畜の伝染病
口蹄疫が宮崎県で大発生
し深刻な事態になっている
が、本町の対応策は。

町長 宮崎県での発
生は殺処分頭数が30万頭
余りで国内過去最大規模
となっている。

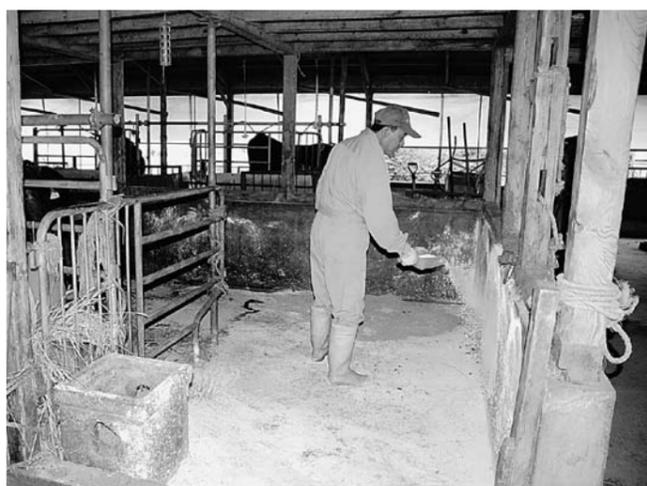
本町では牛544頭、
豚約1万頭が飼育されて
おり、全農家への聞き取
り調査、広報による情報
提供、農協とタイアップ
し消毒剤(消石灰)の無
償配布を行い今後の推移
を見守っている。

駅前開発は慎重に 計画通りに事業推進

小川 国庫補助金が
不透明のなか以下につい
て伺う。
①社会資本整備総合交付
金の概要は示されたか。
②基本協定締結はどのよ
うなのか。
③目的会社の中で指名停
止を受けた業者の取り扱
いは。
④複合施設維持費年間1
億円の内訳を示せ。

町長

①平成22年5月17日付け
で従来どおりの交付金通
知があり概要が示された。
②基本協定締結は7月上
旬に予定している。
③平成22年4月21日付け
で辞退届けが出され受理
した。
④主として建物・設備保
守管理業務、清掃警備業
務、駐輪場および駐車場
の管理業務費である。



消毒剤を散布する家畜農家

※牛、豚などの偶蹄類などが感染する法定家畜伝染病。

短期被保険証の交付

納税相談で速やかな対応

小川 中学生以下の
子供のいる家庭への、短
期被保険証の交付につい
て伺う。

①子供がいる家庭への交
付は義務ではないか。
②関係法律の一部改正に
より、中学生から高校生
までと拡大されたが町内
の該当者は。
③医療を受ける子供の権
利が左右されるのではな
いか。

町長

①対象者世帯に対して納
税相談を行うべく電話連
絡、家庭訪問等で接触を
図り以下のことを含め速
やかな交付に努めている。
資格証明書ではなく短
期被保険証とすることが
義務化されたが、交付方
法については努力義務と
ある。
②現段階で町内には該当
世帯は無い。
③子供の医療を受ける権
利は保証されるべきだ
が、親の納税義務の意識
を高めるため納税相談を
行っている。

おでんせ広場の充実

介護予防に効果

川村 六次総後期計
画策定に当たり町民アン
ケートを実施したが、次
の点を伺う。

①収入の少ない高齢者の
受診率が低下しているの
ではないか。
②高齢者に対する健康、
医療相談はどのように行
っているのか。
③おでんせ広場の充実と
対象者基準の拡充が必要
では。
④介護利用料減免の利活
用の周知と制度の拡充が
必要ではないか。
⑤孤独死ゼロを目指した
交流の場の開設等、具体
的な対策は。

町長

①後期高齢者医療分の20
年度受診率は149・6
3%、21年度は146・
94%で、2・69%減
少している。
②健康相談については、
介護予防事業時に、血圧
測定とともに実施してお
り、その際に体調確認し
変化が見受けられる場合
は、主治医に相談するよ
う指導している。

③介護予防事業として町
内20ヶ所で行なってお
り、今後、利用者を増や
すため更に周知等に努め
ていく。
④利用料軽減制度につい
ては本人に通知し、申請
を受けているが、今後も
引き続き周知していく。
制度の拡充については
国、県等へ要望してい
きたい。

⑤見守り活動に重点を置
き、在宅老人配食サービ
ス事業や一人暮らし老人
緊急通報システム事業等
を組み合わせ、孤独死の
防止に努めていく。

新規就農者の支援対策

後継者育成に重点

川村 農業政策につ
いて農家戸数の激減、耕
作放棄地の増加等をどの
ように考えているか。

また新規就農者支援政
策を計画し就農者を増や
すべきでは。

町長

本町における
耕作放棄地は減る傾向に
あるが、高齢化や後継者
不足の傾向は今後も顕
著になっていくと思われ
るので、担い手の育成・
支援を継続し進めていく。
また本町のような集落
営農が進展し耕作放棄地
が少ない地域にとって
は、外部からの新規参入
は難しいと考えている。

駅西地区仮換地への対応

公平性考慮し十分に説明

川村 矢幅駅西地区
土地区画整理事業におい
て、高齢者世帯や障害者
世帯からの仮換地や移転
等の問い合わせに、どの
ように対応しているか。
また長期の通行止め
による営業への影響に対
し、なぜ経済的補償が行
えないのか。

町長

仮換地指定に
ついては対象者に対し、
従前地の土地利用状況を
考慮しながら公平に行っ
ている。
移転については移転補
償交渉の際に工程、住居
等十分に説明を行い、で
きる限り支障の無いよう
配慮している。
また営業補償について
は、移転に伴い休業する
場合は補償するが、道路
工事等で交通制限が発生
した場合でも、営業を休
業しなければ補償の対象
にはならない。



川村 よし子 議員



おでんせ広場(さわやかハウス)



筆者左



チャグチャグ馬コ同好会 矢巾支部

支部長 **村松武志**さん(下北行政区)

初夏の風物詩

チャグチャグ馬コ

チャグチャグ馬コ！名前からしていかにもみちのくの香り豊かなこの祭りには、約200年の伝統をもつ南部駒の産地にふさわしい馬の祭りで、毎年6月第2土曜日愛馬の労をねぎらい無病息災を祈願するものです。

当日は、滝沢村の鬼越(おにご)蒼前神社に金糸銀糸、紅や紫の布で着飾った愛馬を引いて参詣し盛岡八幡宮まで15kmの道のりを約4時間かけて行進します。馬の装束は三懸(さんか)といひ昔、参勤交代の時の小荷駄(こにんか)装束といわれており、90頭の装束馬が鈴の音を

チャグチャグと響かせながら初夏の田んぼ道や市内を進む姿はのどかでもかも壮観です。

農家の馬に対する愛情の深さを思わせる民族行事で、昭和53年国の無形民族文化財に選定されています。

この行事に参加できるのは滝沢、盛岡、矢巾に限られており、矢巾からは19頭が出馬しています。矢巾支部は発足後60年以上経過し、20名の会員が伝統あるこの行事を末代迄継承するため一丸となり頑張っているところ

あ と が き

歴史的政権交代から8ヶ月余りでまたもや首相の交代と、目まぐるしく変わる国政。

このような状況の中、町では春の徳丹城さくら祭りから、南昌山の山開き、チャグチャグ馬コさらには消防演習と多数の住民参加により盛大に開催された。

次は炎天下の夏まつりと各種イベント、議会活動も順調に経過している。

議会だよりも、本年は県、全国コンクール上位入選に向け、読者の目線での編集をモットーにさらなる研鑽に努めていく。

編集委員
藤原 由巳

発行・編集責任者

議長 吉田 秀一

編集委員

委員長 芦生 健勝
副委員長 米倉 清志
委員 藤原 由巳
山崎 道夫
廣田 光男